

便利な社会が テスト設定力を 奪った?!

2011年1月25日

小原 由紀夫, PMP

(富士通アドバンスドエンジニアリング
JaSST'2010 ベストスピーカ賞受賞)

1. この後

「今日、おもしろかったね。」

「ちょっと、会社に戻るけど、新宿で会おうよ。」

「そうですね。それでは、6:30に西口で会いましょう。」

3. バブル以前の人なら

対策A: 目印を正確に決める。

(“新宿の目”の前、交番の右側)

対策B: お店を決め、場所を確認する。

対策C: 諦める時間を決める。

(10分過ぎたら、お店に移動する。)

対策D: お店の電話番号を確認する。

(お店で呼び出してもらおう。)

4. テスト設定に例えると

- 1) 正常ルートを確立する。
- 2) 異常ケースを考える。(リスク識別)
- 3) 異常ケースの処理を設定する。
(コンティンジェンシー計画立案)

バブル以前は、日常生活が
テスト設定(リスクマネジメント)の
実践の場であった。

「後は、ケータイで!!!」

(当然過ぎて、

これも言わない?!

ケータイが不通は

ありあえない)

6. 何が変わったか？

便利な社会になった。

⇒何か起きれば、ケータイで連絡する

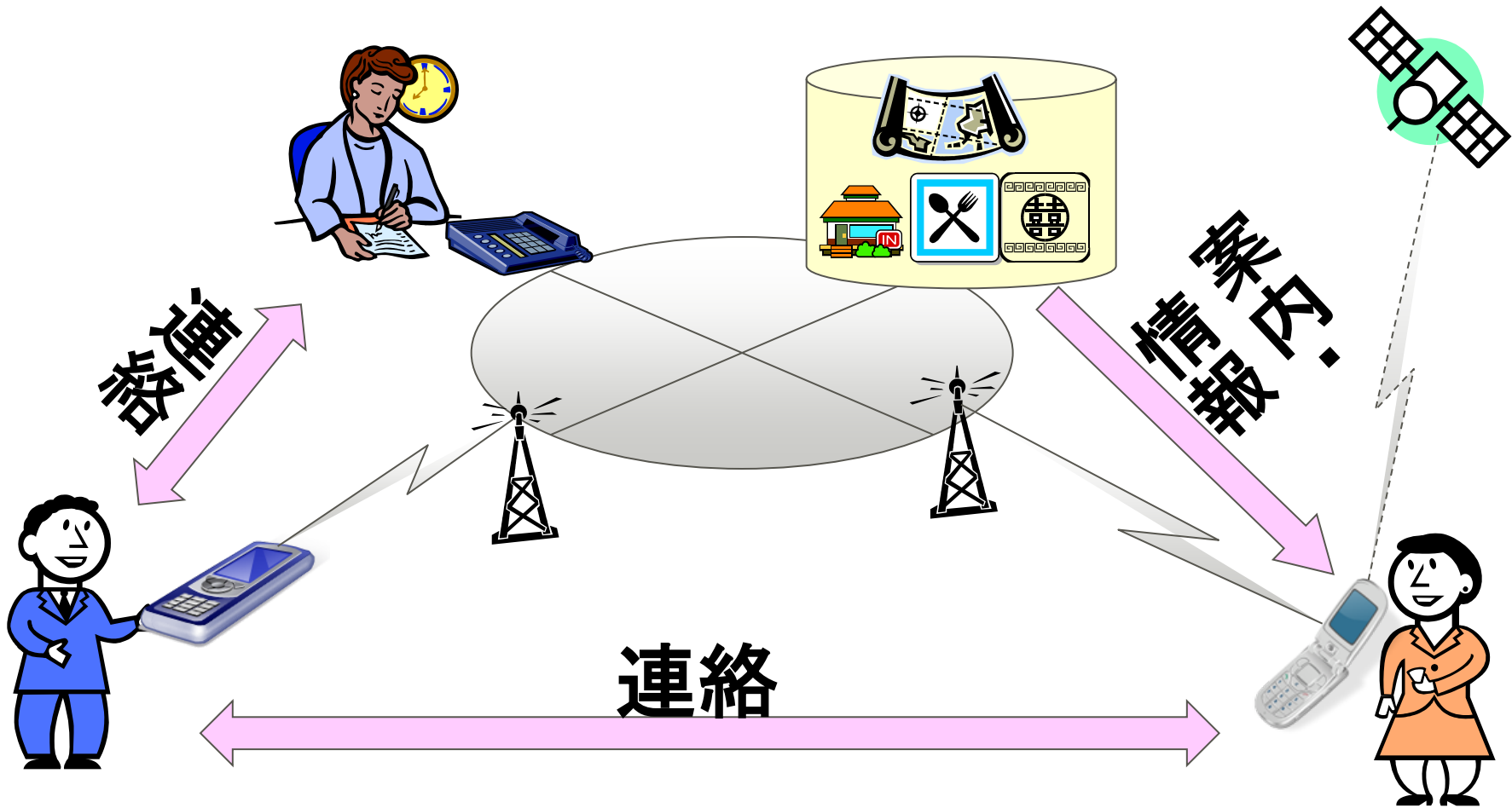
⇒何か起きるまでは、

何もしない/考えない/準備せず、

すぐ行動を開始できる

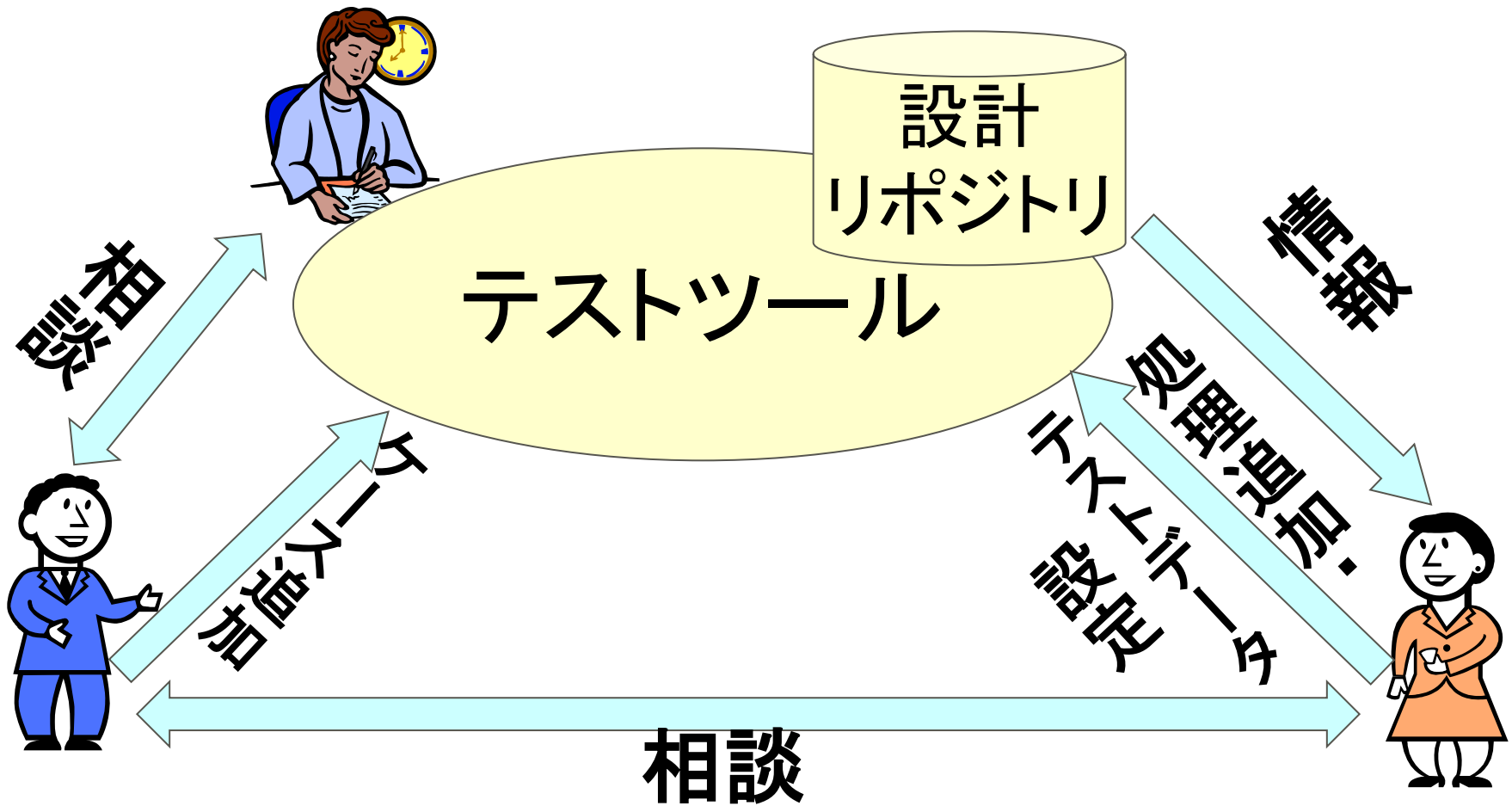
(⇒お店を探したり、お店までの道を案内してくれるのもケータイ。安心)

7. ケータイ = ? テストツール




ケータイが何でもリカバリしてくれる

8. テストツール ≠ ケータイ



テストツールは全てをリカバリできない

- テストツールをケータイと過信して、「後はツールで！」と準備せずに、テストを開始することを避けましょう!!
- テストツールの特性に合わせて適切な準備を行い、効率的に利用しましょう!!



FUJITSU

shaping tomorrow with you